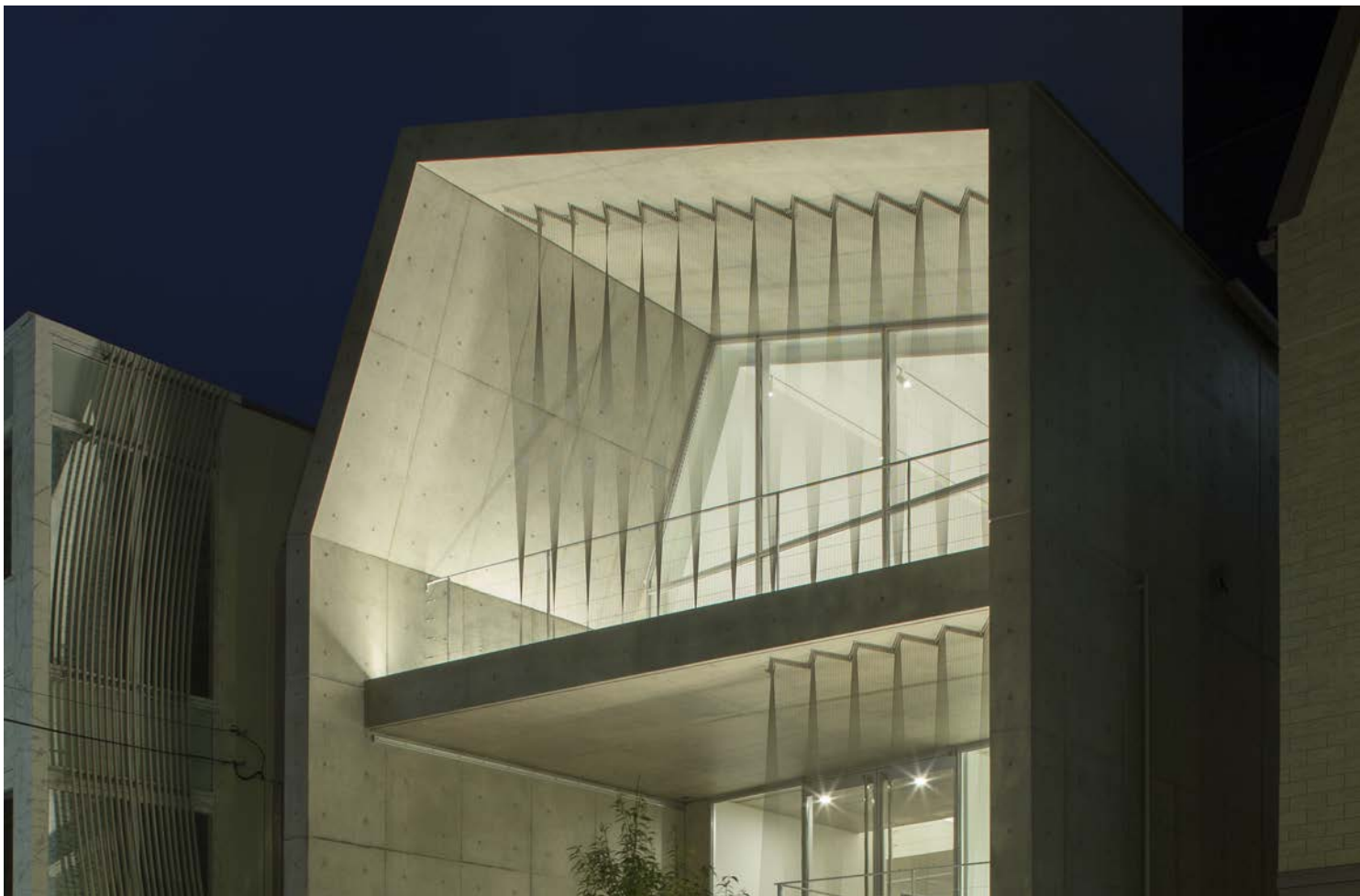


SHIN CLUB 212

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「TIERS (荒川技研工業ショールーム)」 撮影：平賀哲

ないものを創る

写真は、先日オープンした、表参道の「TIERS (荒川技研工業ショールーム)」です。10月16日から22日まで開催された、「DESIGNART 2017」では、4グループのアーティストの作品を、荒川技研工業のワイヤーシステムを用いて、新しい建築空間に展示しました。

期間中は、台風21号の影響で天気がすぐれなかったにも関わらず1000人以上の人が会場を訪れ、予想以上だったという社長の荒川創様にお話を伺いました。

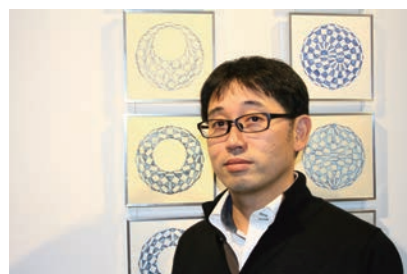
「今回は、ショールームを間借りしていた荒川クリニックの建物が老朽化したため、新たに独立したものを建てることにしたのですが、製品を単に展示するだけでなく、さまざまな使い方を提示して、ご覧いただける機会としました。(p4参照)

もともと研究者だった父、荒川秀夫が『ないものを創る』を理念に立ち上げた会社です。今で言うベンチャー企業ですね。1975年に世界に先駆けてワイヤー金具の調整機構『ARAKAWAGRIP』を開発し、その後この技術を核とした用途製品を次々と生み出して販売事業を展開してきました」

荒川技研工業のワイヤーシステム「ARAKAWAGRIP」は、展示物が1kg未満のごく軽量なものから100kg以上ある展示物まで、用途に合わせた幅広いラインナップがあります。ボールベアリングを利用して、ワンタッチでレベル調整ができ、確実に安全にワイヤーを固定できる金具です。様々なパーツの中から適切な金具を選択し、応用することにより、世界に一つだけの空間演出が可能になります。売り上げの15-20%は輸出関連で、アメリカ、ヨーロッパ、アジアにも拠点を広げています。

アメリカのワシントン・ナショナルギャラリーや、ロシアのトレチャコ

フ美術館などの海外の美術館でも採用され、美術作品の展示だけでなく、ショップのディスプレイや大阪道頓堀のリバーウォーク、鹿児島空港展望デッキなど、土木・建築の分野でもその利用の可能性を広げています。



「ないものを創るという点では、荒川創 荒川技研工業株式会社代表取締役社長 これまでも自分達だけでなく、一緒に使う事を考えてくれるクリエイター、デザイナー、建築家といった人々と協働作業を行ってきました。新しく出来たものを提示すると、新たにそれを使いたいというお客様が現れる、という繰り返しで、今日まで来ました。ですから、そういうクリエイターの方たちと一緒に仕事をし続ける空間として、単なるショールーム、ギャラリーを超えた、ものづくりのベースを作りたいという思いがありました」と語る創氏。

長男ということで「親から会社を継ぐようにと言われたことは一切ない」とのことですが、もともと土木・河川の設計を5年ほど経験してからの入社です。さらに次男の均さんは機械メーカーで製品設計の経験の後、入社。そして1番下の真さんも、工作機械メーカーに勤められていましたが、2年前にやはり入社しました。

「3人とも、5、6年、外の世界を見てきて、やっぱり会社の可能性を考えるとこちらがいいということになってしまいましたね」と笑顔の創氏。クリエイター達のデザイン・発想力に応える、ご兄弟3人のさらなるものづくりの力が発揮されそうです。

TIERS (荒川技研工業ショールーム)



南側外観。

ワイヤーシステムが織りなす、街にひらかれた新たな建築空間

表参道裏通りに面したショールーム機能を有する店舗の計画である。以前、この計画の両隣をあわせた敷地にクリニックがあり、その一部をショールームとして使用していた。そのクリニックの建物が老朽化したため、クリニックの建て替えに伴い、荒川技研工業の店舗として独立した建築を建てることとなった。

この計画では、建築やデザインの専門の人だけが訪れるショールームとしてだけでなく、表参道を通る人々が自由に訪れることができる街に開いた建築をつくる、というのがテーマであった。同時に機能的な面で1層目を一番広いフラットな空間にしたいという要望があった。

まず、道路に面するボリュームを両隣の壁面線とあわせるように斜めの形状とし、道とつながるオープンスペースをつくり出した。

そして、道路から最上階まで連続するウッドデッキの大階段を挿入し、途中階にカルバート状のテラスを配置することで、内部と外部、階段上と階段下の空間をつないでいる。南側のバルコニーにはワイヤーの幾何学的なパターンを用いたファサードを設置することで半外部的な場所をつくり、緩やかに街と連続する空間を生み出している。

このような空間を内包するために、RC造の壁床ラーメン構造として3層のカルバート状の構造形式を採用している。壁の部分には壁柱との段差を利用してニッチをつくり、カウンターやショールームの製品を展示する棚としている。

10月のオープニングイベントで行われた様々なアーティスト、デザイナーによる展示がきっかけとなり、街に開けた、新たな試みを発信する場所となることを願っている。

(田邊 曜)



2階 SHOP3



2階 SHOP3



1階 SHOP2。壁面に Shelf hanging で各システムの部品を展示



地下1階 SHOP1。ガラスと床の仕様でゾーニング



2階 BALCONY



ワイヤーのシルエットが美しい夜の外観

構造：RC造 規模：地下1階、地上2階 用途：物販店舗
 設計・監理：田邊曜建築設計事務所 設計協力：四方謙一、木下道郎/ワークシヨップ
 構造：構造計画プラス・ワン 設備：ZO設計室
 ファサードアートワーク・サインデザイン：野老朝雄
 照明デザイン：岡安泉照明設計事務所 2F：グラフィックデザイン：三星安澄
 施工担当：鄭 撮影：平賀哲

自由が丘の家 T邸

4月に建ち上がった「自由が丘の家」は、1階にテナント6戸を擁する2世帯住宅です。建設計画がスタートしたのが約1年半前。ところが建設途中、ご主人が急逝され、奥様はご自身と次男様ご一家の住まいのために奮闘されることになりました。

いろいろの変更を乗り越えて4月15日に建物は完成。テナントの入居もほぼ終わり、次男様ご家族の引越しも落ち着いたところで、奥様にこれまでの家づくりのお話を聞かせていただきました。



南側外観。1階には雑貨などを扱う自由が丘らしい店舗が並ぶ



3階ダイニング。リビングと一体になった広いスペースを彩る思い出の品々

受け継いだ家を、確実に次の世代へ残したい

45年前、主人に嫁いだときに最初に住んだ家は、空襲を免れた古い木造住宅でした。広いお庭があり、麻布から越してきた私には、踏切の音がずいぶん大きく感じられたものです。子供が幼稚園に通っていた頃、姪を預かることになり、建増し工事を行いました。

その後、隣の家に住んでいた主人の両親が亡くなって、1階がテナント、2、3階が賃貸住宅の建物を建てることにしました。そちらには今、長男が住んでおります。

まもなく、今度は我が家も新しい建物に建て替えました。建物は木造2階建て、外壁は赤いレンガにし、1階にテナントを入れて、2階に家族で暮らすことにしました。テナント業ではいろいろトラブルも経験しましたが、テナントの出入りがなかったため、大変助かりました。

子供たちも独立して、転機となったのは、2011年3月11日の東日本大震災のとき。木造の家はグラグラと揺れて、観音開きの扉は全部開き、戸棚の食器がすべて床に落ちて割れ、主人と二人で家の片づけに何日もかかってしまいました。隣の長男の家も、他のお宅も何でもなかったため、さすがに主人も「ものにつぶされて死ぬのはいやだね」と建替えを考えてくれるようになりました。

耐震性のあるものに建替えて3階建てにし、テナントを入れる事業計画にするまで、主人と二人で下調べにずいぶん時間をかけました。

そして、計画が始まって地鎮祭の後、主人が病に倒れてしまいました。関西にいた次男がちょうど東京に転勤になり、亡くなるまで一緒に看病できたことは本当に良かったのですが、思いもかけないことでした。

建物が無事完成し、嫁や孫たちも完成を待って引っ越してきてくれました。掃除する気力もないくらい疲れることも多いのですが、孫の顔を見ているとまだまだ頑張れます。そして、やっぱり「主人が生きていてくれたらな」と思うのです。

「自由が丘の家」建て主 T様談



トイレにも小テラスが隣接



東側外観。優雅な鋳物フェンスで囲まれた住居入口。右側が駐車場



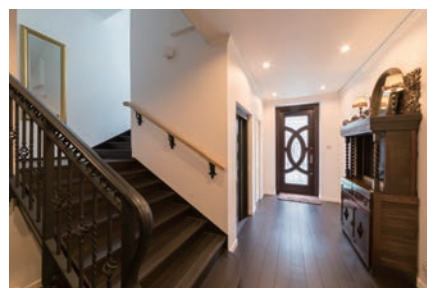
白が基調となった3階玄関



3階キッチン



キッチンに隣接するテラス



住居入口のEVホール。幅広の階段が3階まで続く



地下の免振装置の一部。建築の第一目的は地震対策

構造：S造
規模：地上3階
施工担当：村田、能田
竣工：2017年4月
撮影：アック東京

2017年10月社内勉強会

「RC造躯体品質確保向上のための施工管理」について

2017年10月7日

今月の社内勉強会は、「TIERS」の構造設計を担当した金田勝徳氏を講師にお迎えしました。

「コンクリートは通常、圧縮力（押しつぶそうとする力）に対しては強く、引張力（引っ張る力）には弱い特性があります。鉄筋は逆なので互いの弱点を補い合う関係になります。荷重のかかったときの建物破壊の仕組みを理解してもらうため、改めて構造計算の流れ、鉄筋コンクリートの力学的特性、鉄筋の定着・付着、さらにコンクリートの中性化、型枠の存置期間、RC造のラーメン構造と壁式構造の資料を作成しました。参照してください。

例えば曲げ補強筋はわかりやすいのですが、せん断補強筋は大学生でも意外とわかっていない。鉄筋コンクリートは鉄筋とコンクリートが一体であることが必要不可欠なことです。そのため鉄筋的的確な並び位置や、コンクリートかぶりの厚さの確保などが重要な要件なのです。

コンクリートは本来逆アルカリ性。だからこそ長年鉄筋が錆びないのですが、かぶりが薄いと表面からの中性化が鉄筋の部分にまで早期に進み、建物の耐久性に大きく影響します。最近「かぶり厚が取れていない」と施工後に裁判を起こす人もいます。現場の最初の顔合わせで設計者が全体にこうした注意事項を説明し、場合によっては設計図（軸組図など）に書き込むことも必要です。

また、ピロティのある建物は、上の階の壁で下の階の床を支えている場合もあります。このような場合はコンクリート打設後、普通に型枠を外していくのではなく、上の階の強度が出るまで型枠を外さないよう、存置期間に気を付ける必要があります。現場の最初の顔合わせで設計者が全体にこうした注意事項を説明し、場合によっては設計図（軸組図など）に書き込むことも必要です。

国の防災対策方針も、現状では地震予知は不可能であることを前提にしたものになってしまうとことです。今後はさらに建築の安全性を高めて対応していく必要があるでしょう」（講義を一部抜粋）



金田 勝徳氏

2000年『埼玉県立大学』で「松井源吾賞」受賞
2010年『洗足の連結住棟』で、北山恒氏と建築学会賞共同受賞

弊社施工物件：
BALCON、20K、Glassfall、下馬SK、
下北沢 Apartment/ Blocks, TIERS、など多数。

「TIERS（荒川技研工業ショールーム）」

オープニングイベント

2017年10月16日～22日

先月お知らせしたとおり、10月16日から22日まで、「DESIGNART2017」に合わせて「TIERS」のオープニングイベントが開催されました。

野老朝雄、A.A.O 今北仁、四方謙一、Experimental Creatinos2017の若手クリエイター達の作品が、ARAKAWAGRIP を利用した様々な展示方法で飾られました。

初日のオープニングレセプションでは、野老氏や設計の田邊氏のトークショーがあり、会場には大勢の人が詰めかけ、熱気にあふれていました。

会場には、荒川技研工業会長夫妻も訪れ、お祝いにかけつけた方々に、新しい建物の中を楽しそうにご案内されていました。

(写真★印は撮影：平賀哲、他は編集部)



Experimental Creationsの展示★



荒川技研工業会長夫妻を囲んで記念撮影



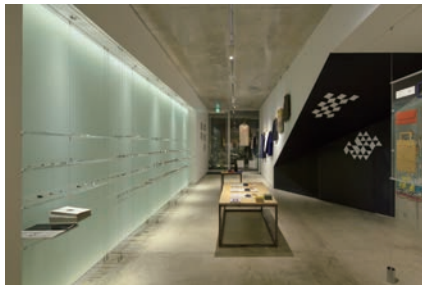
トークショーの進行は野老朝雄氏



四方氏の作品は正面階段の中央に



花束を受け、建築概要を説明する田邊氏



ARAKAWAGRIP 製品と今北仁氏の作品★



幾何学パターンのアートは野老朝雄氏★

「新川2丁目共同住宅 新築工事」 上棟式

2017年9月15日



地下1階：スタジオ・物置、1階：テナント、2階テナント・ストックルーム、3～11階：賃貸住宅（25戸）、12階：共有スペース、となります。

構造：RC造
規模：地下1階、地上12階
用途：共同住宅
設計・監理：長谷川建築デザインオフィス
完成予定：2017年12月

「西浅草2丁目計画」 オープンハウス

2017年10月21日



バレースタジオを擁するRC造の住宅が完成、オープンハウスが開催されました。スタジオの天井の高さが圧巻です。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：バレースタジオ+住宅
設計・監理：山縣洋建築設計事務所
構造設計：坂根構造デザイン

編集後記

・2週連続で台風続きの週末となってしまった10月でした。スポーツの秋、お子様の運動会を予定されていた方もいらっしまったことでしょう。28日のZENグループの運動会は、小雨の中、決行されました。結果は改めてお知らせします。

(株)辰通信 Vol.212 発行日 2017年11月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。
http://www.esna.co.jp/shinclub
スマホはこちらから →

